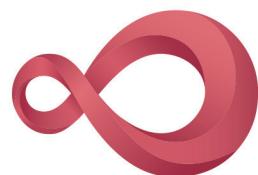


文学部

FACULTY OF LETTERS

- 日本語日本文学科
- 英語英米文学科
- 社会学科
- 人間科学科
- 歴史文化学科



KONAN INFINITY

甲南大学

文学部

FACULTY
OF
LETTERS

日本語日本文学科／英語英米文学科／社会学科／人間科学科／歴史文化学科

文学部という名称は英語ではFaculty of Lettersといいます。ここでのLettersとは手紙ではなく、文字のことを指します。文字を研究する学部ってどういうこと?という疑問を持つ人も多いことでしょう。

この疑問に答えるには、文字を使える動物とは何かを考えみてください。そう、文字を使えるのは人間だけです。人間が人間であることの証の一つは文字を使うということです。すなわち、文学部とは人間そのものを研究する場なのです。このことは、「学びのハッシュタグ」からも一目瞭然だと思います。

甲南大学の文学部の5学科は、学科名称を見る限りそれぞれ独立して全く違うことを学んでいるように思われるかもしれません。しかし実際のところは入り口が5つあるだけで、文学部が目指すところは人間の本質とは何かを究明するという意味では一つなのです。

現代社会は目まぐるしく変化しています。そうした変化の波に飲み込まれてしまうのではなく、文学部で人間の本質を洞察する力を鍛え、広い視野を持った人へと成長してもらいたいということが我々の願いです。

文学部 最新トピックス

・文学部の学びの活動を紹介!

「文学部の学びを革新するぶんたすプロジェクト」をはじめとする文学部の学びの活動を紹介しています。ぜひ二次元コードからチェックしてください。



・文学部リンク・プログラム開始!

2022年度から新制度「文学部リンク・プログラム」がスタート。英語英米文学科の学生が「心理学」を選択できるなど幅広い履修デザインが可能になりました。



・歴史文化学科が公募制推薦入試(個性重視型)を導入!

歴史文化学科が新たな入試制度を導入します。その他の入試情報も二次元コードからチェックできます。



学科の枠を超えた少人数科目「横断演習」について



多様で柔軟な 思考力・表現力



動画編集ソフトで制作した、デジタル・ストーリーテリング作品。テーマは「甲南大学文学部での学び」。写真はその一場面。

甲南大学文学部には学科の垣根を越え5学科の学生が共に学ぶことのできる「横断演習」という授業が用意されています。ディスカッション、フィールドワーク、創作活動などを通じて本授業の受講生は多角的な物の捉え方に触れつつ、自学科での授業とは趣の違う時間を共有することができます。

専門の研究領域が異なる他学科の学生と互いに刺激し合いながら、自分の意見を他者に伝える力を身につけることを目的とした甲南大学文学部ならではの授業を経験してください。

新制度 文学部リンク・プログラムについて

リンク・プログラム

甲南大学文学部だから学べる、もう一つの専攻分野

甲南大学文学部では新たな試みとして2022年度から「リンク・プログラム」をスタートさせました。このプログラムは自学科での専門科目とは別に、一定のまとまりを持った他学科の単位群を受講することで修了認定が受けられる制度です。

甲南大学文学部の5学科は、人文系という学問分野を提供しているという意味では一つのまとまりとなっています。下記にあるプログラムは一見相容れないように見えるかもしれません、実は

切り口が異なるだけで人間の本質を探るという共通項があります。こうした大きなテーマを自分の所属する学科の専門科目とは違うアプローチをすることがこのプログラムの目的です。

おそらく皆さんの中には自分が学んでみたい学問領域は一つだけではなく、様々なことに興味を持っている人が多いと思います。そんな人こそ、ぜひこの「リンク・プログラム」を通して幅広い知識を身につけていただきたいと考えています。

例えば…

文学作品は国内だけでなく海外のものにも触れたい!

日本語日本文学科 Link 英語圏文学

歴史が好きだけど現代社会も気になる!

歴史文化学科 Link 社会学・人類学(ベーシック)

英語と日本語って何が違うのか興味がある!

英語英米文学科 Link 世界中の日本語

芸術における表現と言葉による表現の違いを知りたい!

人間科学科 Link さまざまな表現の世界

社会学を勉強したいけど心理学も捨てがたい!

社会学科 Link 心理学

プログラム紹介

世界中の日本語

英語圏文化

社会学・人類学(ベーシック)

哲学・倫理・公共

芸術実践

歴史文化学

さまざまな表現の世界

英語圏文学

社会学・人類学(アドバンス)

心理学

ヨーロッパ文化スタンダード

英語学

美術史・芸術学

各プログラムの内容はコチラ▶



甲南大学文学部の就職実績

相手に伝える力・表現する力、社会で必要な力が養われる文学部

文学部は就職に「向いていない」、「不利」といわれますが、決してそうではありません。なぜなら文学部では、学生各自が専門テーマをしっかりと学び、卒業研究を上げる過程において、社会人に求められるさまざまな能力も身につけることができるからです。

文学部だからこそ、企業・公務員・教員等、幅広い業界・業種・職種で活躍しており、多様な将来設計が可能です。

【主な就職先】大和ハウス工業(株)、タカラスタンダード(株)、小林製薬(株)、日本食研ホールディングス(株)、(株)ワコール、四国旅客鉄道(株)、(株)マイナビ、トラスコ中山(株)、日立建機日本(株)、(株)ファーストリテイリング、尼崎信用金庫、住友生命(相)、日本生命保険(相)、公務員(兵庫県庁、神戸市役所など)、教員(神戸市教育委員会など)

■就職内定率

2019年度

98.6%

2020年度

95.8%

2021年度

97.9%

日本文化を多面的に理解し、その理解を社会へ発信する能力を養う

日本語や日本文化についてどれくらい知っているかと改めて問われると、自信が持てない人が多いのではないかでしょうか。日本語日本文学科では、日本の言語や文化を深く理解し、さらにそれを世界に発信する力を養います。

カリキュラムの柱となるのは、専任教員が担当する少人数ゼミです（それ以外にも講義科目があります）。1年生の時は、「基礎演習」というゼミで、大学で必要となる基礎的な調査や研究の方法を修得します。

2年生からは専門のゼミ（2年生の「演習Ⅰ」と3年生の「演習Ⅱ」）に分かれます。ここでは、学生の発表と討議が行われます。ゼミごとに、文献を探してその内容を検討したり、いくつも辞書をひいて古語の意味を深く考えたり、作品の歴史的な背景に迫ったり、主人公の内面を深く掘り下げたり、方言や雑誌のことばなどについてとことん調査したり、日本語を外国語として教える工夫を考えたり…。忙しいけれども充実した日々です。

ゼミでの発表や討議を通じて、社会人として必要となる「企画力」「プレゼン能力」「協働する力」などが身につきます。4年生（「研究演習」）では集大成として卒業論文を完成させます。完成時の達成感は格別です。

卒業後は、さまざまな職種へと進んでいきます。金融やメーカーさらに中高の国語教員として教壇に立つ人もいます。資格としては、図書館司書や司書教諭も取得できます。日本語教員養成課程の修了証も取得可能です。日本語教育に興味をもつ学生たちが運営する日本語教室「あおぞら」は地域社会との接点になっています。



ボランティアの日本語教室「あおぞら」

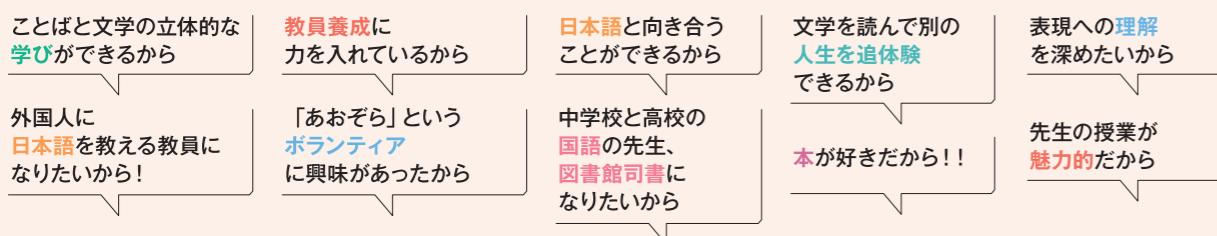
学びのハッシュタグ

#読書 #若者ことば #外来語 #日本語教育 #万葉集 #絵巻物 #樋口一葉 #宮部みゆき #本の装幀 #国語の先生

STUDENT VOICE

私が日本語日本文学科を選んだ理由

日本語日本文学科と一緒に（ことばと表現のプロフェッショナル）を目指しましょう！日本語の成り立ちや運用方法、日本語の豊かな実りとしての日本文学の表現の奥深さを勉強し、日本語・日本文学の融合的知識を縦横無尽に発揮できる力を磨きます。本学科で得た能力は社会に出てから絶対に役立ちます！



文化や歴史、言葉のしくみを知ることと、英語の実践的なスキルの相乗効果

英語英米文学科での学びは二つの柱に分けられます。まずは道具としての英語のスキルを磨くこと。読む、聞くという受け取る力、書く、話すといった発信する力、これらの4つのスキルを徹底して鍛え、卒業時にはTOEICで700～800点、最低でも600点をクリアすることを目標にしています。もう一本の柱は英語という言語の背後にあるものを専門的に学ぶこと。英・米のみならず他の英語圏まで含んだ「文化」と「文学」。そしてことばそのものの成り立ちや仕組みを考える「言語学」。これらの分野を専門として追究し、研究します。

道具としての英語と、英語の背後にある専門の探究は密接につながっており、言葉が身につけばつくほど専門分野への興味も高まりますし、歴史や文化を知れば知るほど言葉じたいを使う機会も増えていくでしょう。

その実践の一つが留学です。英語英米文学科では多くの学生が在学中に留学し、語学力のアップはもちろん、見聞と人間的な視野を広めて帰ってきます。受け入れ留学生との交流の場であるキャンパス内施設“Global Zone”的利用者が多いのも英語英米文学科の特徴です。留学しなくても国際的なコミュニケーションの場を持つことが可能です。

英語英米文学科では「はみだす英文」をスローガンに、従来の「英文科」の枠にとどまらない教育・研究を行っています。映画・コミックなどのポップ・カルチャー、英米以外の文学の翻訳、言語だけではない人間の認知の仕組み、地元神戸の食文化など、スタッフの関心も多彩です。

スタートはみんな英語です。そこからいかに自分の関心を広げていくか。「はみだす英文」で、みなさんの好奇心の枠をじわじわと広げてみてください！



ネイティヴの先生の授業で英語力を磨く！

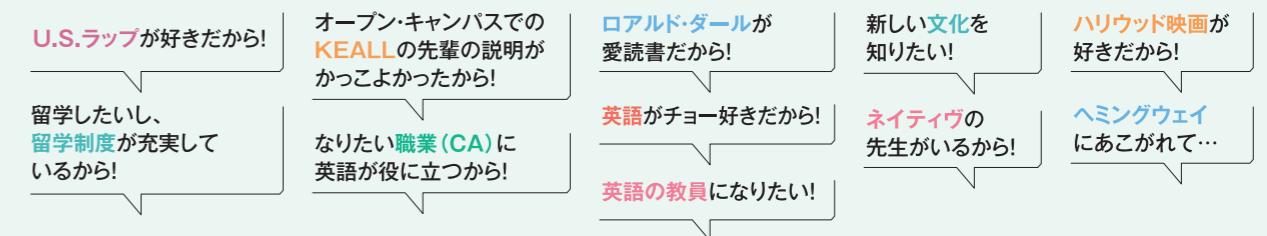
学びのハッシュタグ

#国際交流 #異文化コミュニケーション #留学 #TOEIC #イギリス文学 #アメリカ文学 #言語科学 #シェイクスピア #英会話 #翻訳 #通訳 #英語教諭

STUDENT VOICE

私が英語英米文学科を選んだ理由

英語英米文学科は英語が大好きな学生が集まっています。その英語への興味を出発点にして、日本の外へ、そして広く深い学問の世界へと探求していきます。みなさんも英語が好きなら、英語英米文学科で探究の旅に出ませんか？私たち教員スタッフはその思いを形にするお手伝いをします！



各業界から評価の高い、甲南大学ならではの調査力、研究力、実践力を身につけよう

「社会学」と聞くと小学校や中学校、高校で勉強した「社会科」「公民」をイメージするかもしれません。実際はいぶん異なります。「社会」についての学問は「関係・つながり」についての学問とも言えます。私たちは日々の生活のなかで多くの「関係」のなかに生きていています。家族、友だち、住んでいる地域、学校、部活、インターネットなど、様々ななかたちをもつ「関係」の過去・現在・未来の考察を通して社会に対する理解を深めるのが「社会学」です。

甲南大学文学部社会学科の特徴は、①5つの領域に分けられた多彩な科目群と調査力につける科目、②少人数のゼミを中心とした顔の見える授業、そして③実践的な授業の充実です。「社会」がもつ多様な側面に対して、「ライフスタイルと政策」「文化と共生」「くらしと地域」「組織とネットワーク」「メディア・コミュニケーションと表現」という5つの領域に分けられた多彩な科目群からアプローチします。また調査の方法を1年次から学ぶことができます。2年次から始まるゼミナールは1クラスの人数が10人程度と少なく、卒業論文の研究を進めるなかで自主性と創造性が身につきます。さらに、社会学科には自分で撮影・編集して作品をつくる、大学外に出て取材して発信する、といった実践的な授業が多くあります。

ぜひこれらの授業に積極的にチャレンジして「社会を読み解く力」「他者とのコミュニケーション力」「自分で発信する力」という世の中のどの仕事にも求められる力を身につけてください。



ファッション誌2000冊にかこまれた研究室での「ゼミナール」

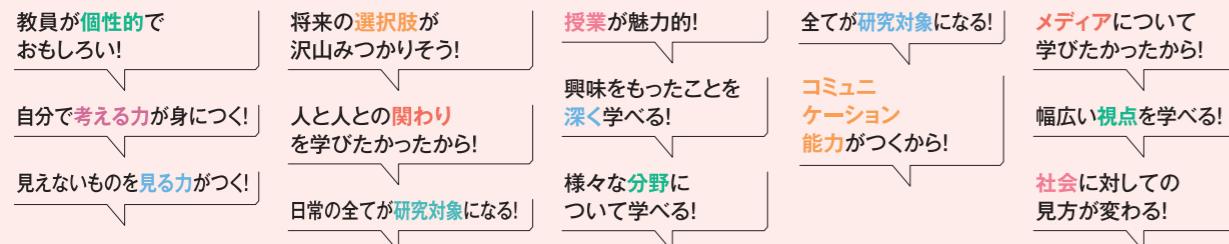
学びのハッシュタグ

#フィールドワーク #メディア #コミュニケーション #社会心理 #マーケティング #異文化 #スポーツ #宗教 #エスニシティ #ボランティア #NPO
#労働・組織 #ネットワーク #家族 #ジェンダー #都市 #観光 #映像 #音楽 #ファッション #メイク

STUDENT VOICE

私が社会学科を選んだ理由

社会学は高等学校までに学んだ知識や視点の応用でありつつ、それらを乗り越え、ものの見方を根本から変える新鮮で魅力的な学問です。日常生活から世界情勢まで、恋愛、ファンション、音楽、スポーツ、テーマパークから天下国家まで世の中で起きていることのすべてを扱い、明瞭なロジックと科学的なデータで社会を分析する力をあなたに与えてくれます!



体験的学習カリキュラムと、多彩な資格を用意

人間科学科は、心理学・哲学・芸術学という3つの異なる領域の知を関連付けながら現代社会の様々な問題にアプローチする学科です。それぞれの学問分野について基礎から発展まで学びを深めながら、それらを横断的に融合させてゆくカリキュラムを持っています。

心理学分野では、記憶、感情、パーソナリティ、差別・偏見、精神疾患、心理学的支援など、認知・発達・社会・臨床に関する心理学の専門的な知識を得ることができます。哲学分野では、古今の哲学者の言葉に触れ、根源的な問いかけを通して思考力と言語表現力を深めるとともに、環境や平和などの現実的な問題の解決を探ります。芸術学分野では美術史学を中心に美学・音楽学・演劇学などの視点から作品を読み解く眼を養い、表現の意味を考えていきます。

こうした複数の領域を結びつけつつ人間とは何かを多面的に探究できる点に、人間科学科の学びの魅力があります。講義を聴くだけでなく、教員補助ボランティアを経験したり、アートの現場に出向いたりして、体験を重ねながら問題解決力・価値創造力を身につける科目群も充実しています。

資格に関しては、国家資格である公認心理師制度に基づく学部カリキュラムに対応しています。また、美術館等で展示や資料管理に携わる博物館学芸員の資格が取得できるカリキュラムでは、美術・歴史・環境の3コースから選択が可能です。さらに、中学校の「社会」、高校の「地歴」「公民」の教員免許状が取得できるなど、将来の道が広がります。

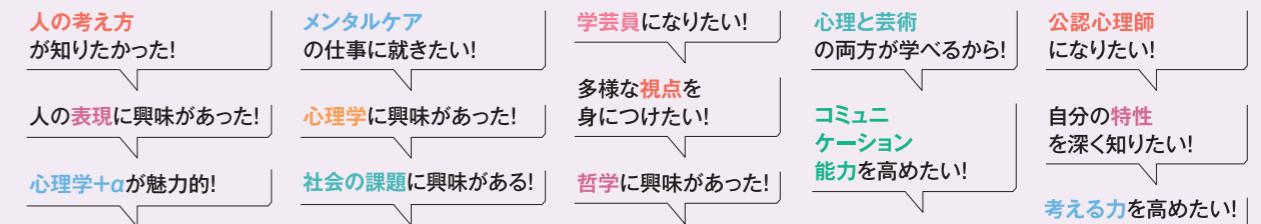
学びのハッシュタグ

#心理学 #公認心理師 #カウンセリング #子育て #トラウマ #精神分析 #アート #哲学思想 #倫理 #環境問題 #現代メディア #博物館学芸員

STUDENT VOICE

私が人間科学科を選んだ理由

人間科学科では、心理学・哲学・芸術学の様々な科目を自分の興味に合わせて、自由に組み合わせながら学ぶことができます。複数の領域を学ぶことで、幅広い視点から人間や社会を捉える力が身に付きます。実践や研究に取り組むことで、問題解決力も高まります。



少人数でのディスカッションで考える力を高めます

日本史、東洋史、西洋史、地理学、民俗学を学ぶ 幅広いカリキュラム

異文化というと国際化のイメージをもつ人も多いかも知れません。地域的な広がりの中で異文化を知り、理解することも重要ですが、過去を異文化として理解することもまた重要です。日本の平安時代に「方違え」という風習があります。悪い方角に進むのを避け、別の方角に向かうことを真剣に行っていました。現代の私たちからは理解しにくい習慣ですが、当時の人々にとっては「当たり前」のことだったです。時代が変わると「当たり前」のことが「当たり前」でなくなっていく人々の考え方が変わっていくという感覚を持てるかどうかが過去を理解する第一歩だと思います。

歴史文化学科では、地域的・空間的な広がりと、時間軸のなかで歴史や文化を考える学科です。みなさんの興味・関心を持っていることは、実は自分自身の「当たり前」ではないものかも知れません。なぜその違いがあるのか、その違いが作られた背景は何か。調べること、考えることで疑問は解けていきます。そういった学びを歴史文化学科でしてみませんか。

歴史文化学科は、日本史・アジア史・西洋史・地理・民俗の多彩な教員をそろえ、専門知識と史資料の確かな理解力を育てる授業、フィールドワークやグループ活動の様々な機会を用意し、一人一人の確かな知と力を育む学びを全力でサポートします。学生たちの自主活動フォーラム「歴らぼ」も魅力の一つです。もしもあなたが、なぜか昔の歴史や遠い土地の文化を好きになったのなら、その気持ちを手放すことはありません。ともに学んでゆきましょう。



東谷智教授
〔専門分野〕日本史



博物館実習の一場面

学びのハッシュタグ

#日本史 #西洋史 #アジア史 #文化財 #人文地理 #博物館学芸員 #民俗学 #フィールドワーク #世界遺産 #阪神文化 #異文化理解

STUDENT
VOICE

私が歴史文化学科を選んだ理由

あなたの「好き」「知りたい」をあきらめず、こだわってください。歴史文化学科は、歴史・地理・民俗の学びに強い意欲を持つみなさんを待っています。高校では基礎力をしっかり磨き、大学での自由な学びへの基礎体力を養ってくださいね。

フィールドワークで
学びを鍛えたい!

西洋史・東洋史・日本史
すべて自由に勉強
できるので入りました!!

西洋史が好きだから!

現在につながる
歴史を
もっと学びたい
と思ったから

学芸員に
なりたかったから

様々なことを学んで
自分の中の選択肢を
広げたかったから

世界遺産が
好きだったから

社会の先生に
なりたかったから

世界史を勉強して
価値観を
変えたかったから!

気になる国が
あって学びたいと
思ったから

